



シンポジウム

まちづくり6つのテーマで

11月12・13日の両日、百年塾フェスタ'94が行われました。12日はシンポジウムが行われ、多くの市民団体、小・中・高校生、先生、企業、行政各課などが一緒に日立のまちづくりについて話し合いました。百年塾の基本理念であるまちづくりの6つのテーマをとりあげ、①楽しいまち、②人にやさしいまち、③きれいなまち、④学校が楽しいまち、⑤若者が燃えるまち、⑥国際的なまち、についてそれぞれ趣向をこらした話し合いが行われました。

また、知って得するおもしろゼミも開講、『充実した熟年を楽しむために』の講演会が行われました。

13日は家族で楽しめるイベントを中心に、市民教授による講座、親子やグループで出店するフリーマーケット、企業・行政各課所の出展、お楽しみ抽選会などが行われました。



シンポジウムで自由に発言する子どもたち



恵まれた自然が 好き 楽しいまち

「私たちのいいところ」「いやなところ」について意見を募集。それをもとにシンポジウムを開きました。応募者の中から年代別に8名を選び、それぞれ投稿した内容を中心に意見を発表していただきました。

いいところは、異口同音に自然環境に恵まれ、住み良い土地であることなどがとり上げられました。

いやなところは、若い人の意見と図書館の利用や公共施設での講習会などの開催が出され、いかにも向上心旺盛な若者らしい発表でした。年配の方からは、交通事情、ゴミの問題、商業の活性化、土地の慣習の相違など生活に密着した問題が取り上げられました。

休憩後、参加者からの質問があり、お互いに活発な意見を交換しました。楽しいまちづくりに向けてこのように自由な意見の発表できる場が今後も必要であると痛感しました。

青少年の新鮮で 率直な提言 人にやさしいまち

やさしいまち、ふくし「年の差なんて」このシンポジウムには、市内の小中学生、中学生、高校生など50名、地域福祉関係者、一般市民70名、合計120名が参加しました。

成沢小学校の照井悠子さん、平沢中学校の海老名理恵さん、常磐女子高校の片木春香さん、高萩高校の市毛直美さんからボランティア活動の

経験を通じて感じたことなど新鮮な、そして率直な提言が発表されました。発表の合間に、茨城キリスト教大学の友崎さん、三村さんの楽しいやりとりで福祉に関するクイズがなごやかな雰囲気の中で進められました。

地域福祉関係者を代表して仲町地区の坂本シゲ子さん、大みか地区の田中文字子さんから、実践にもとづく提言があり、まとめとして、助言者の佐藤由紀子さん、大枝三夫さんから意見の発表がありました。

会場からは、小・中学生や障害者の方から真剣な意見の発表もあり、「今後もこのような会を開こう」との意見が中学生から出るほど活発な話し合いになりました。

やさしいまちづくりに関して、若い人達の意見が広く発表されたことに、このシンポの意義があったと思います。

小さな実践 あなたも 私も きれいなまち

美しいまち、クリーンなまちの二

つの視点で実践活動している市民、企業、中学生など10団体が参加しました。

地域や各種団体が連携して、きれいな川に復活させたり、毎年きれいな花を咲かせている事例や、地域清掃活動などの実績が報告されました。

企業や家庭ごみのリサイクルの効果は一石二鳥、企業も市民も一人ひとりが意識を持ち地道に活動することが大切とされました。

また、野山に小動物が住める環境づくりや、はまぎくの咲く場所の保全、歴史ある日立の桜など、子どもたちへ残すための活動も必要との意見が出されました。

中学生からは生徒会が二十数年続けている地域清掃や、小学生のとき地域のごみ拾いや花植えに参加したことを誇りに思っていると自信を持って発言、参加者を大いに感激させました。

今回のシンポジウムでは、参加者からも積極的に発言があり、和気あいあいの話し合いになりました。

連載マンガ 第3回

百ちゃん年ちゃん TAKAO



おもしろ 学校開放大喜利 学校が楽しいまち

横断幕を背にして、ハッピを着たキャストが8名、4名づつ学校開放『いいじゃんチーム』『心配チーム』に分かれてソワソワ・ニコニコ顔。フロアでは紅白の小旗を持った参加者全員が審査員。果たしてどちらのチームが審査員に共感を与えるか！と言う訳でワイワイと始まった変てこなシンポジウム。

課題は、①学校施設の開放②余裕教室の活用③教職員の地域への貢献④地域が学校で出来る貢献の4つ。これらの問題について、事前にいろいろな角度から現場の意見をキャスト(パネリスト)が収集、とにかく格好いい意見でなく、本音で意見をのべました。

この大喜利をおとしてわかったことは、まず学校開放についての情報が多ければ多いほど、積極的に開放を支持しはじめること、学校開放のような有意義で新しいことがらを実行するときは『出来ない理由』でなく『出来る理由』を探ることが一番大切ということです。

まずは きっかけづくり 若い世代も 外国人も

「料理を作りながら、ワインパーティーを楽しみませんか。働く独身者、若者の参加をお待ちします。」と呼びかけたところ、24名の男女が集まりました。平均年齢は30才前後、企業で働く独身の人たちや大学生、バンラディッシュからきた外国人など多彩な顔ぶれでした。

慣れない料理づくりに戸惑い気味の人や、エプロン姿に照れくさそうな男性もいて、それがかえって新鮮な感じに見えました。円卓を囲み盛った料理を食べながら百年塾ワインを飲み、話し合いとゲームで、時間のたつのも忘れてしまい、予想以上の熱気ある盛り上がりでした。

後日、参加した人たちが、話し合う機会をもったということです。今後も、もっと『働く人、若い人』が百年塾へ参加できるきっかけをつくらせていきたいと思っています。



くっついた食べた 仲間ができた



が感じた日立の人とさる

もっと 交流したい... 国際的なまち

フィリピン、ブラジル、中国からきた外国の女性2名、男性1名のパネリストが、日立に住んで感じたこと、自分の国との違い、日立の人々に対する希望などを話し合いました。

日立に住んでの感想は、交通機関にローマ字表示がないので、電車やバスを乗り違えたり不安だ、外国人に慣れていないのか、ジロジロ見られたりする、あいまいな日本語の表

現に迷ったなどの困った点と、安全で人はやさしい、親しくなるととても親切、役所等の手続きが簡単などの良い点があげられました。希望することは、外国についてもっと知ってほしい、外国人と交流してほしいなどでした。

また、交流会では、フィリピンのバンブーダンスを楽しみました。参加者からは、外国人の生の声が聞けた、異文化交流ができた、またこのような会を開いてほしいなどの要望がありました。

知って得するおもしろゼミの第1回目として行われたこの講演会には、50才後半から60才前半の人が多く、約140名が参加しました。

講演ではスウェーデンのことわざ“人生百年あと7日”を紹介。人生百年を、思い切り充実して明るく生き生きとすごした後、7日間だけまわりの人に面倒をみてもらい天国に旅立つということであると解説。

充実した熟年を楽しむために

このことを実践するにはどうすればよいかを身近な具体例を取り上げて、①いま、人生のどこを歩んでいるか②豊かな人生を送るための5つの要素③人生を楽しむための生きがいづくり④具体的なアクションプランづくりについて、わかりやすく話されました。

最後にサムエル・ウルマンの詩“青春”が紹介され、参加者の人生に多に刺激をあたえる講演になりました。

にぎやかに * 楽しく * ワイワイ * 百年塾



親子で楽しむ講座や教室

国際家族年にちなんで「私たちとくらしとファミリー」とをテーマに開催された講座は、親子折り紙教室親子で作る粘土細工、木工、ちぎり絵、生け花の指導、ペン習字講座など、作品を完成して喜んでいる姿や子供の着付けなど親子がいっしょに楽しみ学ぶ風景が随所にみられました。



大にぎわいの フリーマーケット

日立の祭りとして、毎年開いてほしいと望んでいた青年たちや、押し入れにあるより使ってもらえば、という主婦たち。福祉に寄付したいので心配そうな高校生の仲間たちが出店。売り手、買い手のやりとりする声もはずみ、楽しそうな様子でした。



学校の気になる木



指定校の活動の様子が写真や巨大な『気になる木』で発表されました。また、地域と学校そして家庭の三位一体の活動状況がプロモーションビデオでも紹介されました。見学者の足をしばしば立ち止まらせた逸品でした。

余裕教室の活用を考える

1.日時 平成7年1月21日(土) 10:00~12:30

2.場所 小平会館(城南町)

■ 先進地事例発表(東京都中野区)

■ 「地域に開かれた学校づくり」パネルディスカッション 帯刀 治(茨城大学) 玉井 日出夫(文部省) 深尾凱子(県立湯元教育館) 神永敏光(日立外語学院) 高橋隆光(日立産研)

3.観覧 日立市教育委員会 庶務課 ☎(22)3111(内)414

市民教授 あの人この人

94.10月~12月に登録された方

■阿部幸枝(ジャズダンス) ■大西靖子(洋裁・小物作り) ■川松末治(陶芸) ■菊池良文(魚料理・刺身づくり) ■児玉道子(民謡の踊り) ■佐藤千枝子(三味線・民謡) ■菅原静枝(墨絵・花の栽培・おしゃれの仕方) ■杉山麻子(ロシア語) ■鈴木新(民謡・絵本) ■鈴木弘道(音楽指導全般) ■本庄章(ロシア語会話) ■村山健二(ヨーガ)